

F A 18、爆弾抱え着陆

嘉手納 基地内だけ道路封鎖

【嘉手納】23日午前10時39分ごろ、米軍岩国基地に所属する海軍のF A 18ホーネット戦闘攻撃機が左主翼の下に通常爆弾一発を装えんしたまま、嘉手納基地に着陸した。射爆場で投下できなかつたとみられる。同機は北谷町砂辺側から着陸すると、滑走路延長上にある嘉手納町の県道74号沿いに移動し、立ち往生した。午前11時40分すぎ、軍の消防車両などの先導で自力走行し、駐機場へ移動した。

同機が立ち往生した約1時間、付近の基地内道路は封鎖され、MPが車両を停

止させた。軍の消防車などは同機から離れて待機。一方、日本側に連絡はなく、フェンス沿いの県道74号は通常通り車両が行き交っていた。

在沖海兵隊報道部は沖縄タイムスの取材に「予防着陸で墜落・火災対応救助部隊が出動した」と述べるにとどめ、爆弾の種類などは明らかにしなかつた。F A



爆弾搭載のまま着陸したF A 18。手前の県道74号は車が行き交った。23日午前11時半すぎ、嘉手納町

18の同型機は今年10日にも、爆弾を搭載したまま嘉手納に着陸している。

当山宏嘉手納町長は「米軍から詳細の報告がないが、安全管理を徹底してもらわないと困る。そばに県道が通っており、迅速な通報も必要だ」と話した。

F 15 燃料流出で

抗議決議提案へ

北谷・嘉手納議会

【北谷・嘉手納】米空軍嘉手納基地所属のF 15戦闘機が燃料を流出しながら同基地に着陸した問題で、北谷町議会基地対策特別委員

会(渡久地政志委員長)は23日、F 15部隊の即時撤去などを求める抗議決議と意見書の両案を26日の臨時会に提案することを決めた。原因の徹底究明や燃料噴出の影響を速やかに調査し、公表することなども要望する。

嘉手納町議会基地対策特別委員会(田仲康榮委員長)も22日、同基地での事故続発に対する抗議決議と意見書の両案を25日の臨時会に提案する。両案はF 15やF A 18戦闘攻撃機の訓練中止や原因究明などを求めている。両議会とも全会一致で可決する見通し。